

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	向上心を引き出す授業の創造
目標（評価規準）	自分の考えを持ち、いきいきと表現する児童の育成	
重点に係る現状 設定理由	基礎基本の定着と理解力・表現力・思考力の育成は依然として課題である。学校研究・指導の工夫改善に取り組むことで授業力の向上を図り、「分かる・できる」授業を実践するとともに、全体を見渡した学習支援体制を充実させることで児童自ら学ぶ力の育成を目指したい。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にプラス評価が多い。 ・朝の帯学習であるベーシックタイムは、既習内容の更なる定着や落ち着いて一日のスタートが切れるという面からたいへん有効であった。 ・感染症拡大防止の観点から校外での活動や体験が減ったが、情報機器を活用した授業に積極的に取り組むことで、成果を上げた。 ・研究授業を中心に、授業力の向上を目指して校内研究に取り組んだ。 ・家庭学習については、学校としての取り組みが更に必要であった。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の多くは、「学習がわかる」「いろいろな体験や考える時間を保障してくれる」「いろいろと工夫して教えてくれる」「自分の考えや意見を大切にしてくれる」等、全体的にプラス評価である。 ・保護者の多くは、「基礎基本の定着を図る工夫を学校全体で取り組んでいること」について理解を示している。 ・児童・保護者とも、家庭での学習や読書の定着に課題があることを認識している。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>自己評価の結果は、概ね良好と言える。</p> <p>「自ら学ぶ子」という研究主題のもと授業研究に取り組み、「友だちの意見を受け入れ自分から意思表示ができる子」・「自分なりの目標を設定して取り組める子」の育成を重点にした研究を推進してきた。また、感染症拡大によって様々な制限を受ける中、対策をとりつつ内容を工夫しながら本校らしい教育課程を構築してきた。</p> <p>教育活動のさらなる充実を図るため、次のことに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教員の指導力向上、研究・研修の充実 ○指導の工夫改善の継続的な取り組み ○児童の意欲を高める手立てを考えた授業づくりの推進 ○家庭との連携による学習習慣づくり
学校関係者評価結果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校評価委員会未実施
最終改善方策	<p>今後もさらに「確かな学力」の定着をめざし、教育活動の充実を図るため、次の3点を中心に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業実践を柱とした学校研究を推進することで、指導力の向上を図る。 ○指導法改善による指導の工夫とともに、個に応じた学習支援体制を整備する。 ○家庭と連携し、家庭学習、読書習慣の充実に努める。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	人権感覚豊かな学級・学校の創造
目標（評価規準）	認め合い、高めあう児童の育成	
重点に係る現状 設定理由	<p>集団生活において他者とかかわることが苦手な児童も見られる。日常的な様々な場面において、自他を理解し思いやりの心を持って他者に接することのできる「豊かな心」の育成を目指したい。また、「学校いじめ防止基本方針」に則り組織的な支援体制の充実を図りたい。</p>	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にプラス評価が多い。 ・小規模校らしく職員間に些細な事でも相談できる雰囲気があり、児童理解やきめ細やかな指導につながった。 ・感染症拡大により異学年交流をはじめ人との交流に制限を受けたが、対策を取りつつ内容を工夫しながら、交流や体験、道徳教育の充実を図った。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の多くは、「学校はたのしい」「友達と仲良くしている」「先生たちは子ども一人ひとりを大切にしてくれる」と感じ、学校が安心でたのしい場所となっている。 ・保護者の多くは、コロナ禍に関わらず、学校が「児童がたのしく学校生活を送れるよう努力・工夫していること」に理解を示している。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>自己評価の結果は、概ね良好と言える。</p> <p>人権感覚や道徳心向上の指導・支援への努力に対して一定の評価はあるが、今後とも更に適切な指導が必要である。</p> <p>人間関係の醸成・規範意識の向上を図り豊かな心を育てるため、次のことに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童理解の充実、日常的な指導・支援 ○児童一人ひとりに寄り添う視点に配慮した学級づくり・学校づくりの推進 ○異学年活動、体験的活動の充実
学校関係者評価結果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校評価委員会未実施
最終改善方策	<p>今後もさらに「豊かな心」の育成をめざし、学校生活の充実を図るため、次の3点を中心に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童指導において、学校・家庭との共通理解のもと、組織的な支援体制を中心にした対応に努める。 ○配慮が必要な児童を含めたすべての児童が安心して過ごせるような学級づくり・授業づくりに努める。 ○児童自らが人権意識、規範意識、道徳心を育む機会の充実を図る。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	家庭・地域との連携と健康・安全教育の推進
目標（評価規準）	心身ともに健康な児童の育成	
重点に係る現状 設定理由	心身ともに健康な児童の育成には、安心して過ごせる学校環境と豊かな教育活動の展開が望まれる。様々な方法で学校の状況を情報提供し、家庭・地域とともに子どもを育て、学校を作っていく連携の充実を目指したい。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策のために家庭・地域との連携がとりにくかったため、評価としては低くなった部分がある。 ・各担任や各担当が創意工夫して児童が学ぶ環境を整えているため、大方の児童が明るく元気に登校できている。 ・生活・学習習慣づくりについては家庭との連携が重要であるとともに、個別の手立ても必要である。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学校生活に関心を持ち、保護者会や学校行事に参加・協力しようという保護者の意識は高い。 ・コロナ禍においても、保護者の多くは「各種通信による情報の発信」「連絡対応や相談活動」についてプラスに評価しているが、「安全な環境」については一部マイナス評価がある。 ・児童・保護者とも、「宿題以外の家庭学習」や「読書」についての課題認識がある。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>自己評価の結果は、概ね良好と言える。</p> <p>P T A活動・読み聞かせボランティア・図書ボランティア・見守り隊等、家庭・地域と連携した活動の取り組みは規模を縮小せざるを得なかった。保護者・地域との連携が難しい年ではあったが、感染症対策や活動内容・方法の工夫によって効果的な教育活動を推進することができたことや、積極的な情報提供と丁寧な対応は、評価される結果となった。</p> <p>児童・保護者が認識している課題への対応や開かれた学校づくりへの取り組みを継続発展させていくため、次のことに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報発信活動の充実と地域教育力の積極的な活用 ○より良い生活習慣や学習習慣づくりを目指した保護者との連携 ○安全な環境を保つための施設・設備の改善及び関係機関との調整。
学校関係者評価結果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校評価委員会未実施
最終改善方策	<p>今後もさらに「家庭・地域との連携」や「安全・安心な学校」を継続発展させていくため、次の3点を中心に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各種通信を充実させ、保護者・地域の理解・協力が得られるように努めるとともに、安心・安全な教育環境づくりの推進を図る。 ○保護者と連携し、基本的な生活習慣の確立や、家庭学習・読書習慣の充実に努める。 ○地域と連携し、地域教材を活かした学習の充実を図る。